

第 34 回麻布環境科学研究会 一般演題 11

教育プログラムから ESD プログラムを構成する 一手法について

○小宮 菜摘¹, 小此木 美咲², 村山 史世³

¹ 武蔵野美術大学, 麻布大学生命・環境科学部環境科学科卒, ² 麻布大学生命・環境科学部環境科学科 2 年, ³ 麻布大学環境教育研究会 地域環境研究室講師

麻布大学環境教育研究会は、平成 25 年度環境省事業「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」の神奈川県地域事務局として ESD 神奈川ワーキンググループを組織して、相模原市立青根小学校での ESD モデルプログラムの実証事業（2014 年 1 月 23 日）および ESD の普及・啓発事業「ESD のつくり方ワークショップ」（2014 年 1 月 27 日於ユニコムプラザさがみはら）を実施した。

本報告は、「ESD のつくり方ワークショップ」で開発した「環境教育プログラムから ESD プログラムを構成するための手法」と手順を紹介する。

「教育プログラムの ESD 化」とは何か？ 教育プログラムは、「ねらい（達成目標）」があり、「ねらい」を実現するための「内容（含対象・教育手法・場所・時間・教材）」を設定し、「ねらい」が達成されたかどうかを検証する「評価」で構成される。教育プログラムの「ねらい」「内容」「評価」を見直して、①持続可能な社会づくりの構成概念を抽出し、②それらの構成概念間のつながりを可視化する。さらに、③教育プログラムの「ねらい」の先に「持続可能な社会」と関連付けた「目的（期待目標）」を導き出す。そして、①②③を踏まえて、④「ESD で育みたい能力や態度」や「教材、人、能力・態度のつながり」に留意して教育プログラムを改善すれば、ESD プログラムになると想定できる。

以上の想定に基づいて「ESD のつくり方ワークショップ」では、参加者 50 名を 10 班に分けて環境学習プログラムの ESD 化を実施した。まず、参加者に「親子の自然教育セミナー 2013」のプログラムを紹介した。そして、その教育プログラムから図 1 の ESD アイデアシート上に持続可能な社会づくりの構成概念である「I 多様性」「II 相互性」「III 有限性」「IV 公平性」「V 連携性」「VI 責任制」を付箋紙で抽出した。抽出した付箋紙は議論しながら図 2 の「ESD 構造化シート」に貼り移すことで、構成概念間のつながりを可視化させて、教育プログラムの改善と ESD への変換を行った。以上の手順で実施した結果、各班とも①②③までは達することができた。④までは時間が足りなかったと思われる。ESD 化の手法としては十分に有効である。

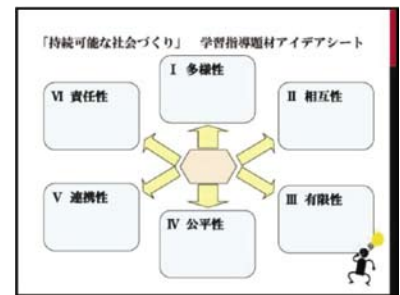


図 1 ESD アイデアシート

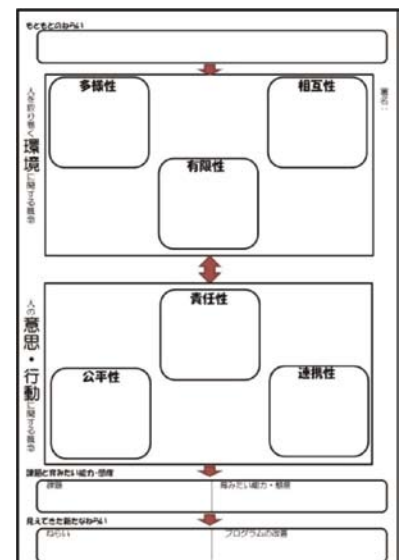


図 2 ESD 構造化シート

ⁱ 岡本弥彦, 五島政一, 佐藤真久, 小林辰至 「ESD 学習指導題材アイデアシートの開発—『持続可能な社会づくり』についての多面的な見方を養うために—」日本環境教育学会関東支部年報 No.6 49-52 頁 (2012 年 3 月)

ⁱⁱ 国立教育政策研究所『学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究 (最終報告書)』(2012 年 3 月)